



議会だより

No. **24**
2005. 1月



印南町消防団訓練初め式

12月定例議会

P2～P3……議案審議・トピックス

P10～P11……委員会活動報告

P4～P9……………一般質問(6議員)

P12……………まちの声

補正予算 13,766万円を追加

総額 50億9,897万円

平成十六年度十二月定例会 議案審議

平成16年第4回印南町議会定例会は12月14日招集されました。

会期は22日までの9日間。付議案件は、教育委員会委員の任命、平成16年度一般会計補正予算や特別会計補正予算等12件。議員発議1件が上程され、慎重審議の上、全て議決、承認されました。

また、定例会開会に先立ち、9月14日付で総務大臣より感謝状の贈呈を受けた森下弘議員、榎本敏夫議員に対し、感謝状の伝達式を行いました。

感謝状受章にあたって

森下議員より一言



私が町会議員として35年間努めることが出来ることになりました。

も町民の皆様方の温かいご支援はもちろんのこと、同僚議員の皆様をはじめ、町執行部の方々のご指導・ご協力の賜と心より深く感謝いたしている次第です。

この度、総務大臣より感謝状をいただき、私にとりましては誠に身に余る光栄と存じています。

これもひとえに皆様方のお支えのお陰であり、有り難く厚くお礼申し上げます。これからも、印南町の発

榎本議員より一言



去る9月中旬に総務大臣・麻生太郎様から貴台は永年

展のために任務を全うすべく努力を重ねて参りたいと存じますので、皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。

地方議会議員として地方自治行政に貢献されましたので、その労苦に謝意を表するため、感謝状を贈呈いたします。その御一報を拝受しました。私如き者が、このように充分貢献できたとは思っておりませんが、議員に選出いただいて以来9年間、町執行部や各議員の皆様のご協力と町民皆様方の過分なるご支援のお

陰によるものです。深く感謝し、お礼を申し上げます。36年間ありがとうございました。今後は皆様方がお寄せいただいたご恩の万分の一でもお報い出来ますように努めさせていただきます。ありがとうございます。

議案質疑

真妻出張所

Q 真妻出張所が廃止するということになるが、廃止されたあとの建物の処分について解体するのか、あるいは全て残すのか、町としての方針は？

A 地元、田ノ垣内区長さんと相談しており、集会所として使用して

いる部分は今後も活用。出張所の本体の部分は撤去して、土地を区に返還する方向で考えています。

Q 町内では、真妻地区の高齢化率が一番高い中、出張所がなくなるのは地域の方から見ても、不便な面も出てくると思うが、3年間の経過措置ですが、何らかの対策、例えば郵便局と業務提携して戸籍や住民票の手続きをとる手だても考えてはと思うがどうか。

A 川辺町が4月1日から郵便局と提携ということで、視察、研修をしておりますが、今のところ非常に件数も少ないというところで、3年間有余を持つて保育園で業務をするこ



廃止となる真妻出張所

真妻運動場

Q 真妻地区の運動場が無くなるということが、1年間にどれくらい使用されているのか。
今後真妻地区の運動場についてどのように考えているのか。

A 真妻運動場の利用状況はここ数年6回〜7回程度です。主にPTA関係のソフトボールの練習で使用されています。

これに替わる施設については、現在、古井運動場の使用で、調整できないかと考えてございます。

Q 真妻運動場がなくなり、国道用地として使用するということが、このことについて地元の住民と十分話し合いを持っているのか。

A 教育委員会としては国道425号の放線の決定の時点で、既に地区の了解をいただいていると判断している。

今後、区長会等を通じて、地域の皆様方に周知していくよう努力したい。

災害復旧

Q 台風23号による印南の波止場（通称「横島」）の破損復旧ですが、負担率と起債1,100万円の交付税措置はどれくらいになるのか。

A 国庫負担率は3分の2で、交付税算入率は高くて約95%の算入率になると予想されます。



復旧が急がれる波止場（横島）

宅地造成

Q 宇杉の宅地造成ですが、第一期目、23区画を売り出し、内、16区画を売却、一億五千万円余りの収入があったところだが、今後の売却予定は当初予定と変わってこないか聞きたい。

A 四期に分け、売却の予定で、起債の償還が10年と余裕があるので、長期で処分もしていくという方針でいきたいと考えている。

ダム対応に旧真妻中学校跡地を宅地造成

Q 旧真妻中学校校舎跡地を造成工事して3区画する予定であるのが、全部埋まる予定はあるのか。

A 今のところ、ダムの水没予定者の方から1区画の要望がありますが、残りは未定です。
ダムによる移転者を優先しながら一般の方への分譲も考えています。

大型共同作業所

Q 大型共同作業場の台風被害への修繕について、半額保険が下りるとのこと、一般財源からは680万余り投資になるが、今後の使用対応については。

A 修繕のあとの利用については日々念頭に置いて取り組んでいるところだが、非常に難しい状況。今後、企業が来て頂けるようがんばっていきたい。



大型共同作業所（西浜埋立地）

★トピックス★

17年1月9日成人式（20歳の集い）が執り行われました。トピックスとして写真紹介いたします。（対象者107名）



夢・空高く飛翔



請願第1号 中学校教科書採択についての請願
総務文教常任委員会に付託された本請願は、審査した結果、一部採択として、今議会で総務文教常任委員長の報告があり、全議員賛成で一部採択されました。
意見書
「平成17年度地方交付税所要総額の確保に関する意見書」
内容抜粋

●平成17年度の地方交付税は、平成16年度以上の総額を絶対確保するよう強く要望する。（意見書可決）



藤本良昭議員

久保井町政これからの政治姿勢は

質問 行政担当者として大変舵取りの難しい昨今ですが、次期町長選について出馬の意思はいかに。

答弁 町長

今は17年度予算編成に向けて全力を尽くしている大事なときで、表明は時期尚早と思っている。

再質問 町内各地から20団体以上の出馬要請が届いているとのこと、混乱を避けるためにも何らかの態度表明を。

答弁 町長

皆様方の熱い思いに感謝の気持ち一杯で、できるだけ御期待に添えていきたい。

財政運営の

基本方針は

質問 財政的に厳しさ増大中、それに対応する財政運営の基本方針は。

答弁 町長

不可解な内容の三位一体の改革等で確たることは言えないが、町民との役割分担等、地方自治のあり方の見直しや「覚悟を決めたまちづくり」をしていく必要ありと考える。

質問 市町村合併に対するこれからの考えは。

市町村合併 第2幕の必要性

答弁 町長

新法も用意されたことも含め、第2幕の必要性を感じており、広域合併の有効性やそれができなかったら広域連合も視野に入れた新たな模索の必要性を感じており、リーダーシップをとっていきたい。

質問 印南SAのその後の進み具合、考え方は。



現在のサービスエリア

答弁 町長

有田方式を参考に、やはり管内市町村で作る町村会あたりが主になって協議会を立ち上げ、第三セクターで、もち

地籍調査の早期完了を目指して

質問 ようやくスタートした地籍調査の経過と問題点は。

答弁 建設課長

島田地区の比較的取り組みやすい島田田んぼから始め、地区関係者のご理解と協力により順調に進んでいる。その中で、4件の筆界未定があったが、現在では1件残すのみとなっている。

現在までの実績として筆数774筆、1筆平均500㎡、町内88名、町外13名、全体0.37K㎡である。

再質問 法改正により、外注もOKとなれば大いに活用し、期間短縮を、また町民全体へのPR対応は。

答弁 建設課長

町内113.6K㎡あり、25～30年かかると思うが早期完成を目指し目下検討中。

ろん立地の印南町が主になっているかねばと考え、今進めている。

また、PRについては、町広報誌等を利用し、広く理解、協力を求めている。

答弁 助役

この件は長丁場となるので、経過がわかる者の配置や外注等についても十分検討を要するもので、現時点では具体的には未定で、今後の課題であります。





谷井長平 議員

防災対策について

—— 防災対策は町民の願い ——

質問 再三の大型台風の襲来で、町内でも大きな被害が出ました。切目砂丘の浸食現象の原因究明、切目川河口より切目橋周辺の災害復旧や、今後の事業について伺いたい。

島田田んぼへの 切目川の逆流は 水門設置で

答弁 建設課長

切目湾内の土砂は人工的に排除しないかぎり減少しないと考えられるが、調査によると、湾内での土砂の移動は考えられるとしています。

特に高波、洪水による大浜や河口での土砂の移動の頻度などにより砂丘の変化現象もあり、今後、地元と協議を重ね、対策を県に要望していきたい。

災害復旧は、左岸護岸と200mの土砂の浚渫を災害査定に申請する。

今後の事業については、河口からJR鉄橋間1,700mについては年明けに現地測量をし、浚渫工事は17年2月頃、着手になる。

打ち越し部分については、毎年時期を見て浚渫したいと聞いている。瀬戸川について



切目大浜を越える高波



冠水した島田田んぼ

は切目川の水の逆流、高波の浸水防止対策として水門の設置を計画している。

質問 台風二十三号による切目大浜の防潮林の損傷がありました。保護育成対策はどうか。

防潮林の松枯れの 対応はしていく

答弁 産業課長

防潮堤の復旧は17年8月頃までに完成させたいとしています。松枯れ対策は、森林病害虫防除事業と、保安林改良事業とで実施すべく進めている。

児童の安全 対策と健全 育成について

質問 児童の通園、通学の安全確保と健全育成に向けての取り組みについてはどうですか。

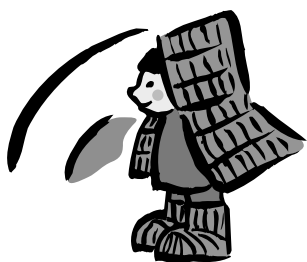
答弁 教育長

常に子ども達の安全確保のため、細心の注意のもと努力を重ねております。子ども達には、登・下校中に不審者に出会ったときの対応の仕方等についての実施訓練をして、自らの命は自

分で守る訓練は各学校でやっていたいただいています。
また、一人ひとりに防犯ベルや、笛を持たせて身の危険を人に知らせるようにしています。
子ども達を守り育むために、学校、家庭、地域が互いに連携しあっているという、町民の皆さん方のご協力を切にお願いしたいというのが、今の状況です。



通学の安全を問う



高速道利用客の 印南町へ立ち寄り引止め策を早く



梶本敏夫 議員

日高地方特産物 紹介の場

第三セクター 方式でも

次期町長選出馬意向と 切目川ダム事業への取り組みは

質問 道路は生活圏域を変えます。国道四二号の紀南往来客がしばしの憩いの場だった全国でも上位にあったドライブイン紀南パレスが、時代の変遷で社会に対するひとつの役割が終わりましたと40年2ヶ月の営業を閉じました。当町当地方のこれに変わるものは高速道へのパーキングエリアの立ち上げでしょう。附近市町村からのお声はありませんか、印南町にしばし足をとめていただく日高地方只一の特産物紹介の場としても早い実現をと思いますが。

答弁 町長 町外からは未だ声はありませんがエリア立地町としてせっかくのものであり公園等への要望もして参りましたが、第三セクターでの立上げとなれば附近市町村とも加入等の話もありそこから町外との話ともなりましようから先ずは他地方を参考としてパーキングエリア立上げに努力していきたい。

質問 国の各省庁へは往復1,200キロの日帰り猛陳情をつづけて、国のダム新規建設計画ストップ傾向にも町民の命と産業財産を守る熱意で全国只一つの切目川ダム建設を認めさせた町長の行政手腕に今、3選への出馬要請が続いています。早く町民からの要請に対しての対応えと来年度へのダム関連事業への頑張つてこられた御成果の感触をうけたまわりたい。

○ダム予算は先ず安心

答弁 町長

多数の出馬要請をいただき只々有り難く思っています。現在財政制度激変が予断を許さぬ状況の中で、ここ当面は来年度予算編成に向け全力で取り組みたい、今自身の出処進退の明言は差し控えたい。皆様の御期待には添えるように努力していきたい。また、ダム事業は国の予算

内示も近く出ると思います。が、来年度は計画した分はいける感度で一安心と言いうところ。私の健康も先ず大丈夫です。予算概要を聞きダム事業は自信を深め、強力に事業を推進していきたい。



町長の陳情姿



パーキング立上げを待つエリア



印南サービスエリア





西田太夫 議員

台風塩害対策について



畑地より海平を望む

質問 今年台風が10個も日本に来るといふ異常な年でありました。豪雨もあり、新潟では中越地域を襲った地震は被害額が1,306億円にもなり、全国の農林水産業が受けた台風、豪雨、地震による今年の総被害額は9千億円近くに上っていることが農林省の集計で明らかになったが、当町における今年の台風での被害額をどれほど把握されておるか伺いたい。

また、沿岸地域農業においては漁港防波堤の築造により、塩害の被害が大きいと思われるが、これに対する暴風ネット等の助成事業や防風林の植樹への助成を検討してはどうか町当局の考えをお伺いいたします。

答弁 産業課長

台風被害状況は6月21日の6号で被害額1億2,580万円、16号は970万円、23号では1億8,080万円と推測しております。

暴風ネット・カンレイシヤの助成については町として研究し、検討していくところであります。

また、防風林の植樹に対しては必要に応じいろいろな事業を利用して対応していきたいと考えております。



海岸より畑地を望む

教育問題について 学力低下をまねいていないか

質問 日本の高校1年生に対する学力調査の結果、国際的に上位に位置していた学力が低下していることが経済協力開発機構の調査結果で明らかになりました。

本町における各中学校において、生徒の学力低下はまねいておらないか、教育委員会ではどの様に調査分析しているか、見解や学力調査テストの利用指導や補習授業の有効活用についての所見をお伺いしたい。

県下一斉テストを 有効活用していく

答弁 教育長

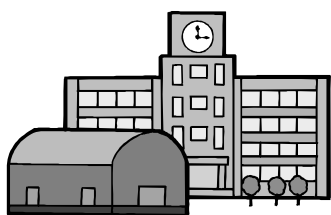
学力低下問題について、県下一斉学力診断テストは町内の集計はできていますが、県下全体の結果はまだ公表されておられません。

本町における学力は昨年と比較して同じような傾向ではと思っております。学校側と詳細な分析をして結果を出していきたいと思っております。

それを基にして指導態勢や指導方法の工夫をはかり、学力補充の授業をしたり、保護者と連携して家庭学習の有効活用をしたい。

補習授業については各学校では昼休みとか放課後の個別指導や夏休み中の補充学習や中学三年の放課後学習など、各学校とも、先生方がきめ細かく指導してくれているのが現状であります。

これからも積極的に学習に取り組んでいけるよう、保護者の皆様にもしっかりとお願いをしたいときと考えております。



印南町再生のために!

～今、何をすべきか!～



玄素彰人 議員

質問 現在の合併に関する情報の提供は足りないと考えている。「議員に説明している」「広報に載せている」から十分という今までの見解と変わらないか。

答弁 参事

変わっていない。情報提供については必要な時期がくれば考えていきたい。

再質問 必要な時期とはいつのことか、明確な基準を定めて言っているのか。

答弁 参事

基準は定めていない。

不足を補う努力を!

質問 町のシミュレーションでは、来年から毎年約3億5千万円の財源不足が生じると予測している。

予算項目を個別、具体的に見直し、同時にシーリングを実施。それでも駄目なら職員給与の削減を考えると徹底的な行財政改革が今すぐにも必要では。

答弁 参事

17年度予算で事務事業の見直しは指示している。シーリ

ング、職員給与の削減は考えていない。

再質問 事務事業について、努力は認めるが、削減の目標、金額を設けているのか。また、今のままでは、6、7年先の印南町の存続の担保もない状況だが、長期的な「財政再建計画」を立てるつもりはないか。

答弁 参事

事務事業について、削減目標は設定していない。また「財政再建計画」も立てていない。

独自性を求めて

質問 これからの人口減、自治体間競争に対応していくため、独自性のある自治体作りが必要と考えている。

保育料の半額化など思い切った政策実施が必要では。

答弁 住民課長

昨年、保育園の国庫負担金が打ち切られ、厳しい状況。半額化は難しいと考える。幼保一体化等でサービスの充実を目指したいと考えている。

質問文については<http://www7.ocn.ne.jp/~gensosan>でご覧になれます。

今回の一般質問の要旨

情報共有によるまちづくりの活性化

行政の情報を行政側から積極的に開示、住民のみなさんにも情報を共有していただき、そのうえでいろいろな議論をしながらまちづくりを進めていくことがこれからの財政難、多様化した時代において必要と考える。

徹底した行政改革

来年から約3.5億程度の不足が生じるというシミュレーション(予想)である。しかし、これに対してなんら対策を行っていない。6・7年後の印南存続の担保がない状況。
予算項目を個別・具体的に見直し、財政不足、これから必要になる政策実施に当てるお金を作る必要がある。

独自性のある自治体のために

自治体の基礎は人口、その人口を増加、または活性化させるために「保育料の半額化」「乳幼児医療の無料年齢の引き上げ」など少子化対策を中心に、メリハリのある高齢者、産業政策などを実施。他の自治体とは一歩違った魅力のある自治体作りが必要。

この3本の基礎方針のもと

これからの印南の再生を図ってはどうか?



榎本一平 議員

海岸線の災害

対策の計画を問う！

質問 異常気象の影響で多くの台風が発生し、上陸が記録され、そのつど被害が出ている。

特に台風23号は県下全体、当町に大きな被害をもたらした。

当町の海岸線は約8キロある。切目地区の海岸は最近の台風の影響で国道、民家など各方面に多大な被害を出している。海岸線の災害対策の具体的な計画はどうか。

答弁 建設課長

元村区の現地調査を行った。補助事業として県に要望し、平成17年より事業化に向けて協議している。

切目大橋から川崎モータースの約321m。堤防の上にパラペットをかさ上げし、さらに防護柵を設置する。



防災事業が予定される切目海岸

介護保険制度の見直し 内容はどうなっているのか？

質問 介護保険制度が実施され4年が経過し、来年、在宅介護サービス利用の制限や介護サービス利用料の値上げなどの見直しがされようとしている。

保険料徴収年齢を20歳に引き下げることや「障害者支援費制度」を統合するなどの検討もされているといわれている。

現時点で行政側として把握している介護保険制度の見直しの内容はどのようになっているか。



答弁 住民課長

一番の大きな見直し内容は「予防重視型システム」の転換である。メニューは筋力トレーニングや転倒訓練とされ、その対象者は要支援と要介護Ⅰと認定された軽度の対象者である。



小・中学校の調理室 への空調施設の整備 に対する対応は？

質問 小・中学校の給食調理室、職員室、校長室にクーラーが設備されていないのは郡内で当町だけである。

9月議会で、学校の給食調理室の適切な温度と湿度が保

答弁 教育次長

全ての学校の給食調理室へのクーラー設置は単年度では困難であり、緊急、必要性の高いものから対応したいと考えている。

今、平成17年度の予算編成が行われていると思うが、教育委員会はこの改善を行政側に反映してくれているのか。

たれていないことを具体的な数字を示し、今のままでは衛生面で問題があることを指摘し、改善を求めました。



完成した印南小のランチルーム



「委員会活動報告」

総務文教常任委員会

東南海・南海地震・津波対策

～印南町の防災体制は～

どうなのか～

平成16年9月5日、紀伊半島沖・南海沖を震源とする地震が連続して起こり、津波警報が発令されました。また、10月23日には新潟中越地震が発生、多くの犠牲者を出しました。

当委員会では来るべき東南海・南海地震・津波を想定し、去る11月30日に印南町における防災体制等について、①防災計画、②行政の防災体制、③町民への防災意識の啓発の3点について担当課職員から説明を受けました。

①防災計画

地域防災計画については平成7年1月17日発生の阪神淡路大震災を受けて作成。平成15年12月7日に「東南海・南海地震防災対策推進地域」の指定を受け、地域

防災計画について見直しを行っている。

町独自の津波避難計画については、住民参加のワークショップ方式により、地域の実情に合わせた計画となるよう考えており、平成16年度での作成を予定。

印南への津波は地震発生後23分で到達すると予想されており、各地域に応じた避難計画を立てていく。

②行政の防災体制

印南町の災害本部の設置については震度5以上の地震が発生したとき、または町長が必要性を判断し、設置することとなっている。

職員の配備体制については準備体制に12名、各警報が発表されたときに第1号配備体制。災害救助法の適用が予想されるときは第2配備体制、災害救助法の適用災害が発生したときは第3号配備体制として全職員が各役割の部署に配属する。

③町民への防災意識の啓発

避難計画をもとに住民に対して教育及び啓発を行う

ていく。「自らの命は自ら守る」を基本とした自助、協働が大切であることから「自主防災組織」としての自立を促していく。現在も、広報や広報カレンダーでの啓発を行っている。

厚生常任委員会

授産施設について 今後の方向性

去る10月29日、役場3階会議室において、授産施設と次世代育成支援事業について、所管事務調査を行いました。

一、授産施設の現状と今後の方向性について、住民課長より説明を受けました。

町内障害者の施設利用状況については橋本市、和歌山市、西牟婁郡や御坊市、みなべ町、美浜町等の施設を利用してのが現状です。

印南町内に授産施設を建設するとして、平成15年度に障害者授産施設等、調査研究費として100万円の予算を計上していましたが、現在未定となっています。

日高町では同施設の建設が進められ、17年度中には完成することになっていて、作業

内容は、食品加工と聞いています。

印南町に建設する場合の問題は施設を利用する人がどれくらいあるか、また運営面でのこともあり、今後の方向性としては小規模の作業所から積み上げて行かればと思いますが、何より大切なことは、内容の充実であると説明を受けました。

次世代育成 支援事業について

二、次世代育成支援事業について社会教育課長による説明を受けました。

アンケート調査結果について

平成17年4月1日より次世代育成対策行動計画のスタートとなります。これに伴い、市町村は必要サービス量の算定、供給サービス量の決定等、行動計画の策定に当たるとしています。

当町では、次世代育成行動計画策定のため、各層にアンケート調査を実施しました。調査は主に保育園、幼稚園、小学校低学年に関することが目玉となっていて、A・B・C・Dの調査があり、Aは就学前の保護者、Bは小学校児童保護者、Cは中・高校生用、

Dは一般用で、それぞれ該当者に調査票を配布、回収。回収率は全体平均で71%でありました。

説明を受けた後の質疑応答では次のような質問が出されました。

○幼保一体化の進め方や園舎の改修は。

○保育園児一人当たり100万円位の経費となっているが、国の補助金削減で、町財政圧迫が進むのでは。

○印南町の幼児教育は保護者のニーズにそぐわない点が多い。

○園舎の耐震性は。

等々、活発な質疑がありましたが、最後にアンケート調査の結果を見て、それに基づいて次世代育成支援事業を実りある対策事業としていただくようお願いし、所管事務調査を終えました。



住民課長より説明

産業建設常任委員会

PAと道の駅の

視察研修

9月議会で、「町をPRするためにもPA程度のもを何とか立ち上げたい」という町長の姿勢を受けてPAと道の駅の視察研修を行いました。

吉備・湯浅パーキングエリア、滋賀県愛東町、道の駅「マーガレット・ステーション」の視察を地域振興特別委員会と合同で行いました。

10月19日、役場において事前研修を行い、10月25日、視察研修。12月7日に研修のまとめを行いました。内容については地域振興特別委員会と重複しますので、当委員会の報告は割愛させていただきます。(地域振興特別委員会の報告をご覧ください)

農政懇談会

10月26日、農業士会から依頼があり、農政懇談会に参加しました。

内容は、

- ①遊休地対策
- ②地域一帯となった病害虫防

除

③印南サーブিসエリア直売所について

④緊急登録農業について
こうした懇談会については回を重ね、印南町の基幹産業である農業を充実させ、成果につながる懇談会になつていけばと願っています。



農業士会との懇談会

地域振興特別委員会

道の駅「マーガレット・ステーション」視察研修

10月25日、地域振興、産業振興につながる拠点づくりとして、滋賀県愛東町の先進地道の駅「マーガレットステーション」の視察を行いました。この道の駅は、基幹産業である農業を主体としたまちづ

くりを進めるため、国道307号沿いに建設され、農産物の流通、加工、人的交流、観光、情報の5つを総括した田園公園化の拠点作りとして平成7年から供用が開始されています。

田園生活館は、英国カントリー風の建物、塔屋の三角屋根が特徴で、レストラン、土産物、ドライフラワー、ハーブ・ポプリ等のショップ、各種教室を開催する花工房と事務室があり、塔屋部分は展望ルームとなっています。



田園生活館全景

直売館では、愛東町で収穫された新鮮な農産物を生産者が直接販売し、朝とれたての野菜、果樹、雑穀、その他加工品等を販売しており、売上の10%を直売所に納め、その内の2%をJAに渡すシステムをとっています。

品物はJAと協力し、170品目を揃え、会員280名の1人当たりの年間売上げが平均120万円にもなっています。

フルーツ&ハーブ工房「ラプティ」では、牛乳、果物、野菜を利用して、手作りのアイスクリーム、クッキー、ジュース、ジャムなどを加工して販売し、若い人やファミリー客を増やしています。

運営体制は、第三セクター方式で、土地、建物とも町が保有・整備し、出資は愛東町1億円、JA2000万円(2JA)、商工会500万円の合計1億2500万円。

管理運営は(財)愛の田園振興公社が行っているが、レストラン部分の管理運営は商工会に委託しています。

従業員は常勤職員6名、臨時職員16名、アルバイト10名の32名体制で行い、館長は大手流通企業の経験者を配属して管理に当たらせている。

利用者数は年間40万人あり、順調な集客が続いている要因として①季節ごとの多彩なイベント②女性客をターゲット③花工房やアイスクリームなど手作りの加

工品④地元の新鮮な農産物などが上げられます。

これらに加え、農業体験をもう1本の柱として、野菜収穫体験、体験農園オーナーなどを実施している。

平成14年度の売上げ状況としては直売館4億5,000万円、田園生活館1億4,000万円、ラプティ(農産物加工施設)5,400万円となっている。

今回の視察には、両委員会主催のもと全議員が参加し、印南町の特産物と照らし合わせながら、今後の町発展へ大いに参考となる視察研修となった。



田園生活館館長より説明を受ける

カルフル・ド・ルポ印南で福祉のまちづくり

今回は平成12年2月14日開設した特別養護老人ホームカルフル・ド・ルポ印南を訪れて、福祉のまちづくりについてインタビューをしました。

「カルフル・ド・ルポ印南」事務長の若野光浩さんにインタビューをしました。



若野事務長

カルフル・ド・ルポとはどういう意味ですか

フランス語で、「憩いの広場」という意味です。

カルフル・ド・ルポ印南が印南の人たちの「憩いの広場」「やすらぎの広場」になれば良いということで、施設の名称としました。

福祉施設ですが、元氣な方も「憩いの場」「やすらぎの場」としてご利用していただきたい。



カルフル・ド・ルポ印南全景

施設ではどのようなサービスが行われていますか

今は入所サービス（50床）ショートステイサービス（24床）、デイサービス（定員40名）グループホーム（18室）それと居宅介護支援事業所（ケアマネージャー）が介護計画を作成し、皆さんの介護の相談等をし、サービスの利用をスムーズに受けられるようにするの運営を行っています。

来年、介護保険の見直しがありますが、これからの高齢化社会を迎える中、今後、どのような施設を目指していますか

高齢者の方々が安心していられる施設づくりが必要であると考えています。

私たちは地域の方々がどのような気持ちで居るのかをくみとり、地域に根付いた施設でありたいと思っています。

施設もバリアフリーですが、皆さんがいつでも気がねなく来てもらえる心のバリアフリーを目指しています。

また、行政の立場としてでなく、民間の立場としての福祉施策の一端を担っていきたい。



若野氏にインタビュー

町民との交流はどういったことがありますか

月に1回はボランティアでの奉仕がされています。内容は踊りやカラオケなど。また、小学生や中学生が総合学習としてボランティアの体験学習も行われています。

さらに、町内グループによる清掃活動や祭りの時期には祭りの一部をルポで披露していただいたり、ゲートボール場の利用などを通じて交流しているが、福祉を最高であると思っています。

町民の方々に何かメッセージを

福祉のことでしたら、いつでも、何でも気がねなくご相談に来ていただければケアマネージャーや職員が対応させていただきます。

利用しようという気持ちになっていただいてこそ「憩いの広場」「やすらぎの広場」としての活用ができる。民間でしかできないことを一生懸命やっていきます。

よろしく願っています。

あゆみ

2005年、あけましておめでとうございます。

皆さんご健勝にて新春をお迎えのこととお喜び申し上げますとともに、今年も幸せ多き年になることを願っています。

1月7日の消防団の初め式、9日の成人式に全議員が出席いたしました。力強い消防団活動、成人された皆さんの晴れ姿を目のあたりにし、新しき年の始まりを実感しました。

当委員会といたしましては今年も、皆さんのご意見等を伺いながら、読みやすく、より親しまれる議会だよりを目標に委員一同頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

議会広報特別委員会

委員長 玄素 彰人
副委員長 榎本 一平
委員 谷井 長平
西田 太夫
前田 芳孝
榎本 敏夫